

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	平成25年3月31日	評価結果市町受理日	平成26年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年4月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いや個性を尊重し、毎日が楽しく、またお互いが笑顔で過ごせるように、日々努力しています。さまざまな場面の中で役割があり、時には利用者の方向士が声をかけ合い、また、助け合いながら共同生活を送られています。季節に合ったホーム内での行事や、外出行事を多く取り入れ、楽しみを利用者と職員、時にご家族とも共感できるように取り組んでいます。利用者の方、そしてご家族の方、スタッフが、しっかり手を絆ぎながらひとつの輪となり、もう一つの「我が家」と感じていただける家創りを目指し、日々取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念「喜怒哀楽」を基本に置かれ、利用者一人ひとりが、毎日楽しく、お互いに笑顔で生き生き暮らす事ができるように支援されています。地域で行われるどんど焼きや観音祭り、神社の祭りでは、利用者が参加されやすいように、地域の方が駐車場を確保して下さる他、事業所のしめ縄づくりの参加案内を自治会のお知らせに載せて回覧され、地域の人の参加を得られているなど、地域の中にとけこんだ温かみのあるつきあいをされています。錦帯橋、徳山動物園、海響館、瑠璃光寺、鹿野の芝桜、梅見、イチゴ狩りなどのドライブや季節の花見など外出の機会を多くつくっておられ、戸外で気持ち良く過ごせるよう支援に取り組んでおられます。誕生日に利用者の希望の場所に職員と一緒に外食を楽しまれたり、利用者と職員と一緒に靴屋に行かれ希望の靴を購入されるなど、利用者一人ひとりの希望にそった個別の外出支援をされています。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 喜怒哀楽を念頭に置き、理念に基づいた介護を実践しながら、人として当たり前の感情が自然と表情に溢れてくる日々を送っていただけるように支援を行っている。またホームのある地域には山や川、田んぼやお宮など豊かな自然があり、自身で春夏秋冬を感じていただけるように、外へ出る機会も多くし、ホーム周辺地域に馴染みの場所を作りながら、安心できる生活を送れるように努めている。	事業所独自の理念「喜怒哀楽」を職員全員でつくり、何時でも確認できる場所に掲示し、管理者と職員は共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は散歩をしたり、草取りや畑作業などを通じて、地域との交流を深め、人々との繋がりを大切にしている。回覧板にも目を通し、地区の行事はお誘いもあり、利用者の方が出来るだけ参加できるようにサポートを行っている。地域との関わりは、施設行事にも地域の方が参加、協力して下さったり、自然とお互いが挨拶を交わす場面もみられる。	自治会に加入し、地域の草取りや清掃に参加している。地域のどんど焼き、観音様の祭り、神社の祭り等に利用者と職員が参加して地域の人と交流している。事業所でのしめ縄づくりの参加案内を自治会のお知らせに載せて回覧し、地域の方が多数参加するなど、地域の人との交流に積極的に取り組んでいる。近所の方がペットとして飼われている馬の散歩の様子が事業所のテラスから見え、時には事業所に立ち寄って触れ合っている。毎月1回の手芸ボランティアの来訪がある他、大正琴や日本舞踊、歌声喫茶、マジックショー、少年少女合唱団、中学生の吹奏楽、ギターを生演奏など、多くのボランティアの来訪があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くの施設見学希望を受け、施設内を案内する際に、認知症の方の生活を説明し、お一人おひとりの個性を尊重しながら、役割を持っていただくことで、生き活きとした表情で過ごしておられることを実際に感じていただけるように努めている。また運営推進会議でも地域の自治会長や民生委員の方が委員として参加され、毎回事業所の様々な取り組みや支援法についてのご報告させていただきながら、認知症についてのご理解、ご協力を得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については職員も意義を理解し、評価項目の内容に基づいて施設運営ができるように取り組んでいる。また評価結果も真摯に受け止めて、次の目標を立て、今より更にと考えることで、サービスの質の向上に繋げている。	管理者は「地域密着型サービス評価項目ガイド集」に沿って個別に職員に説明し、各自が自己評価をするための書類に記入し、自己評価作成担当者がまとめ、管理者が作成している。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立て、事故防止の取り組みや災害時の地域との協力体制など、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、状況報告や行事報告、事故、ヒヤリハットの報告などを行い、質問などを受けご理解いただけるように説明をし、委員の方々の意見も受け入れながら、サービスに活かせるように取り組んでいる。またサービス評価についても定期的に説明を行い、評価結果も会議にて、報告を行っている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、行事報告、事故報告、ヒヤリハット報告、研修報告、外部評価の取り組み等について報告し、意見交換している。ソフト食の試食や消防訓練についてのミニ研修などを実施している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者、介護保険室担当者に委員として出席をお願いし、事業所の運営内容をお伝えしながら、現状をご理解していただけるように努めている。また会議の最後にはお互いに情報交換を行い、意見等を伺っている。	市担当課とは運営推進会議の他、電話や直接出向いてサービスの取り組みを伝え、情報交換するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。「認知症対応普及事業」の委託を市から受けている他、「高齢者を支える関係機関の連携を考える会」に出席している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵を絞めず、センサー音にて対応し外に出られる際は見守りを行っている。各居室にはテラスがあり、外の空気を自由に吸うことができ、テラス越しに、散歩されている近所の方と話をされたり、手を振ったり閉鎖的な環境を作らないように努めている。施設内研修も行い、拘束について改めて、自分自身を振り返り、考える機会も作っている。 法人、施設研修に身体拘束の研修に参加し、どのような行動、言動が身体拘束にあたるのかを職員は理解し、意識しながらケアに取り組んでいる。	職員は法人や施設内研修で身体拘束について学び、玄関や居室の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。研修で学んだ「危うい傾向チェックリスト」で自己チェックをし、自己を振り返りながら、ケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、施設研修に高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会がある。虐待については気になる対応などは、ミーティング等で職員間で話し合いながら、適切なケアが提供できるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。施設長とも日々話す機会を設け、個々の状況を相談を行い情報を共有している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容などの説明を詳細に行いながら、一つ一つの疑問や不安を解消され、ご理解を得よう努めている。退去後アンケートも送付し、返送された意見や感想を受け止め、今後の運営に活かせるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情についての受付体制をつくり、第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、契約時には説明を行っている。ご家族の面会時には、必ず最近の状況をスタッフが説明を行っているが、意見や相談等もいただき、回答が必要なことについては、後日きちんと管理者が説明を行っている。その他、要望についても、出来るだけ添えるようにと考えて、聞き取った職員は報告、相談をしている。また年に数回ホームでの家族参加の行事や家族会を行い、時間を設け、希望や意向を伺う機会を作っている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や電話、年2回の家族会で家族からの意見や要望を聞き、職員間で対応について話し合い、結果を家族に伝えている。家族より、個別の面会の機会をつくってほしいとの意見があり、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの個性を活かしながら、やりがいのある職場作りを心掛け、意見や提案を取り入れながら、運営できるようにシートを考え活用している。利用者またご家族とも話しながら、担当者が中心となって、その人らしいケアの方向性を考えている。また行事や創作活動、昼食の日には担当職員を決め、担当者が利用者や他職員の意見も聞きながらまとめ、企画を立てている。	管理者は同じ内容で毎月2回ミーティングを行い、職員全員の意見や提案を聞く機会を設けている。業務の見直しへの提案があり、業務の負担軽減について話し合いをしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週1回の統括会議において現状を報告を行い職場の問題点については報告し、法人幹部に改善対策案を出し早期に解決できるように話し合いを行っている。また全職員に対し定期的に話し合いの場を設け、意見や希望を聞き、生き活きと働けるようにと考え、やりがいの持てる職場作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には希望に応じ、出来るだけ参加を行っている。また研修後は復命をし、他の職員にも回覧をして内容等に目を通したり、ミーティング時に報告をしたり、全員で情報を共有できるように取り組んでいる。併設施設との毎月テーマを変えた研修や法人内研修にも職員は参加を行う様に努めている。	外部研修は情報を提供し、参加を勧めている。受講後は復命して、全職員が共有出来るようにしている。法人研修は年間計画に基づき、月毎に同じテーマで毎週実施し、全職員が勤務状況に合わせて参加している。内部研修は必要に応じ、ミーティング時に実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内でのグループホームの部会も行き交流できる機会を作り職員同士の意見交換を行っている。また、グループホーム協会主催の研修や学習会にも参加を行い、サービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その時々表情から、不安なこと、悲しいこと、楽しいこと、嬉しいことなどの把握に努めている。どのような場面でも傾聴を忘れず、安心、信頼できる関係づくりを目標として取り組んでいる。また、ご家族にも状況を毎月ご報告し、現状をご理解していただけるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にしっかり情報収集を行い、ご家族の想いや要望を聞き取り、入居前にミーティングを行い、全職員で情報を共有できるように努めている。 来苑時、ご家族とゆっくり過ごせるような環境を作り、最近の様子や現状をお話し、お互いの信頼関係が築けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にはご本人、ご家族の要望に添えるように、情報は全職員が把握、共有し、どのようなケアが必要なのか、意見を出し合い、最適なサービスができるように取り組んでいる。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩である利用者の方へ尊敬の念を持ち、日々の関わりの中から、その人らしさを見つけ出せるように努め、顔なじみの関係づくりを行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は特に決めておらず、ご家族には多く来ていただけるように努めている。 ご家族には、毎月現状報告書を担当者が作成するとともに、行事のお知らせをし、ご都合があればご家族にも参加をいただいている。また必要な受診などは事前に相談を行ったり、一緒に受診に行っていたり、ご家族にもご協力をお願いをしていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や、知人の方の来訪もあり、ご本人とゆっくり話ができるように努めている。また、写真を撮らせていただき、ご本人が思い出せるように記録として残している。	面会時間は特に定めておらず、夜間でも可能で、仕事が終わってからでも家族が面会できるように支援している。親戚の人や知人、友人の来訪があり、来訪時には利用者と一緒に写真を撮って、居室に掲示し、思い出の一コマにしている。年賀状や手紙の支援をしている他、家族の協力で外食や外泊、法事への出席など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中ホール内で過ごす利用者の方が多く、日々の挨拶や集団でのレクリエーションや外出などを通して、利用者の方同士が顔なじみの関係づくりになれるよう取り組みを行っている。 ホームでの生活の中で、役割をもち、お互いが助け合いながら、気持ちよく生活できるように、日々支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去または転居などの契約終了時には、今後も必要とあれば相談等はお受けすることをお伝えし、今まで培われた関係を継続できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりできる時間を大切にし、関わりを多く持ち、ささいな会話でもそのままの言葉を記録に残し、職員同士や他職種とが共有ができるように心がけている。また言葉にできない方のささいな行動にも気を配り、その行動が何に繋がっているのかを職員同士が情報を交換し、把握できるように努めている。	入居時に利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握をしている他、日頃から利用者との関わりを多く持ち、利用者の言葉や様子を記録し、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用状況や情報を多く収集し、ご本人はもちろん、ご家族や知人の方にも面会時には必ず話す機会を設け、いろいろな話を伺えるように職員は心がけている。またその情報から知り得た生活環境や、生まれ育った故郷などの情報は職員で共有し、会話の中に取り入れながら思いを汲み取れるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに身体記録と経過記録があり、身体記録では、食事摂取量や、バイタル等身体の様子がわかり、生活の様状や、ご自身でされた身の回りのこと、ホームでの役割等を記載し、1日をどのように過ごされたのかが分かるようになっている。経過記録には利用者の行動や言動などそのままを記載し、その場が読んでわかるように工夫している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い生活を送っていただけるように、担当者を決め、担当者を中心に密に課題やケアの方法などを考え、提案し話し合いながら介護計画を作成している。また、支援方法も日々の変化に合わせて変える必要があるもので、スタッフの意見も反映できる書式を使い、全員が共有しケアできるように回覧を行っている。	利用者を担当する職員が記録した利用者の状況把握のための各シートの情報を基に、計画作成担当者、管理者と話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している他、状態に変化が生じた時はその都度見直しをしている。24時間シートを活用し、月1回の全体ミーティングと日々のカンファレンスで利用者の変化に合わせた支援について話し合い、職員間で共有しケアに取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりに身体記録と経過記録があり、身体記録では、食事摂取量や水分量、排泄状況やバイタル等、身体の状況がわかり、日中の生活をどのように過ごされたのか、ご自身でされた身の回りのことやホームでの役割等を記載し、1日をどのように過ごされたのかが分かるようにしている。経過記録には利用者の行動や言動などそのままを書くようにしており、その場面が読んでわかるように記載している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日中はホールで集団レクリエーションや個別レクリエーションを当日勤務のスタッフが担当して行っている。集団レクは体操やゲーム、散歩等、体を動かしながら顔なじみの関係づくりができるように考え、個別レクは創作活動や個々の好きな事、やりたい事を行っていただけるように支援している。畑作りも行い、草取りをされる方、野菜を作る方、畑を見ながら昔の話をされる方、様々だが、一番の楽しみは、収穫した野菜を皆さんと調理し一緒に食卓を囲むことだと考え、取り組みを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や祭り等には出来るだけ参加していただけるようにと、スタッフは支援している。運営推進会議では、地区の民生委員の方も委員として来ていただき、毎回お互いに意見の交換を行っている。また、ボランティアもきてくださり、毎月来られる手芸ボランティアの日には、ご家族もホームへこられ、一緒に参加されることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1度の往診があり、現状報告をしている。またその時の状況に合わせ相談を行い、ご家族の希望も伝え、専門医への受診にも紹介状を書いていただいている。受診にはご家族と一緒にスタッフも受診することとしており、日頃一緒に過ごしている側の気づきや情報を受診時に報告し、適切な処方や指示をいただけるように支援している。またご家族の都合がつかないときはスタッフでの対応で受診し、報告することとしている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回訪問診療がある。専門医への受診は医師の紹介状と事業所の経過記録表を持参し、家族の協力を得て支援している。家族と受診結果を報告し情報を共有しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週に1度訪問看護にて、体調管理を行っている。看護・介護での報告、連絡、相談など情報の共有を密に行えるよう記録を使いながら、お互いが協力しながらお一人おひとりの健康管理に努めている。スタッフからの相談にも、看護の視点から細かく指示や対応方法を伝えてもらい、お一人おひとりによりよい介護を行えるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームから情報提供を行い、環境の変化で急激な変化が起こらないように努めている。また、治療中も面会をし、病院関係者に状況を伺ったり情報交換を行っている。治療中の経過は職員全員が情報を把握し、退院が決まれば今後について話し合うことにしている。また退院時にも出向き、注意することなどを直接病院関係者に伺い、ご家族とも今後の対応など話し合いながら、ケアの方向性についてを決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人、ご家族の意向を伺い希望に添えるように支援を始めている。入居後においても定期的に話し合う機会を設けながら意向に添えるように努めている。また状況の変化にもその都度ご家族と話し合いをし、ケアの方針を決める際には医療関係者も交えながら、様々な選択肢を説明し、希望される方向を見出し、その意向に添ってチームケアをおこなえるように努めている。	契約時に、重度化した場合における対応について家族に説明し、同意を得ている。定期的に家族と話し合う機会を設け、実際に重度化した場合は、主治医と相談し、職員間で話し合い、方針を共有してチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が予測される場合など、未然に防ぐために、その都度管理者及び当日の職員で、案を出し合い対応策を検討し、直ぐに対策を行っている。事故報告書、ヒヤリハットにも記入し、一人ひとりに合った対策案を検討し、再度同じ事故が起きないように、また大きな事故に繋がらないように回覧をし、全職員が把握するように取り組んでいる。また職員は、緊急時の対応法など施設内研修や法人内研修、法人内でのグループホーム部会等での学習できる場には参加をし、身につけるように取り組んでいる。週1度の訪問看護からも、その都度応急手当についてや初期対応について指導を受けている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、その都度管理者と当日の職員で対応策を検討し、全職員で共有して、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。緊急時マニュアルを作成し、法人内の他グループホームと急変や緊急時対応についての研修会を実施している他、看護師の指導を受けている。職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を整備し、同敷地内の併設施設と合同で年2回の火災訓練と年1回の風水害時の防災訓練を計3回実施している。また運営推進会議で災害時について今までこの地域で起きた災害についてもお話を伺ったり、また訓練後の報告や相談を行っている。自治会のご協力をお願いをし、地元消防団の協力を得ての火災訓練も行うことになった。	併設施設と合同で夜間想定を含めて年2回の火災訓練と年1回の風水害時想定訓練を実施している。運営推進会議で地域への協力を依頼し、地元消防団の協力を得て、利用者全員が避難できる訓練を行っているなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に声かけや態度を気をつけ、常に誇りやプライバシーを損ねない対応や、声かけができるように心がけている。定期的に職員は自分自身を振り返るように努めている。	法人の接遇研修で学び、職員は一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の過ごされ方は自由でこうしたいと思われることに対し出来るだけ希望に添えるように考えている。また職員は、お一人おひとりの行動を見守り、ご本人の気持ちを汲み取れるように、個々に合わせた支援法を見いだすためにお互いが知り得た情報を共有できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団活動が好きな方や、1人の時間を大事にする方などさまざまな為、その人らしい1日の生活ができるよう心がけている。1日の内容や希望などを、利用者の方と一緒に決め、ホワイトボードに記入することで利用者と職員がお互いに、張り合いのある生活を送ることができるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、美容院の方に来ていただき、毛染めやパーマなどの希望に添えるようお願いしている。また衣類や靴などは出来るだけお店にお連れし、ご自分で見て好みのものを選んで購入していただけるように時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなどの準備や、後片付けとしての食器洗いや食器拭きなど職員と一緒にしている。昼食の日を取り入れ、利用者の方の希望を参考に献立を決め、野菜の皮むきなどを手伝っていただきながら、一緒に昼食作りを行っている。旬の食材を使ったり、畑の野菜を収穫し使ったり、四季折々の献立も立てるようにしている。天気の良い日は外での食事の場も提供をし、楽しく食事を一緒に食べることも行っている。その他、季節行事に合わせ、桜餅やおはぎをみんなで作り、楽しく過ごしていただけるように努めている。	主菜は三食とも法人からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者はおしぼりの準備、盛り付け、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。毎月1回から2回「昼食の日」を設け、利用者の希望に沿った献立で、畑で収穫した野菜や旬の食材を使って、鍋料理、ソーメン流し、コロッケ、手巻きずし、オムライスなど、利用者と職員と一緒に食事づくりをして、食事を楽しんでいる。弁当を作って外で食べたり、どら焼き、おはぎ、桜餅などのおやつづくりや誕生日には個別に外食を楽しむなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日全体の食事摂取量や水分摂取量が把握できるよう記録に残し、体調の変化がないように努めている。 一人ひとりの嗜好品を把握しながら、提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導を行い、残渣物が残っていないかを確認し、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを使用し、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った声かけや誘導を行い、トイレ内での排尿、排便を促している。またお一人おひとりの、排泄に関する使用用品については、状況に合わせて使い分けをし、失敗や使用料金の軽減に努めている。	24時間シートを活用し、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便がみられるよう、水分量や活動量など気をつけている。 便秘時は、飲食物やおやつなどを工夫し、排便を促せるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望される方には、毎日入浴ができ、ゆっくりと入浴していただけるよう努めている。拒否がある場合は、無理強いせず、1回でも多く入浴していただけるよう、声かけや、タイミングを工夫し、スタッフ同士で案を出し合いながら検討している。	入浴は毎日、10時30分から17時までの間に、一人ひとりの希望に沿って、入浴を楽しめるように支援している。入浴をしたくない利用者には声かけやタイミング、職員を交代するなど工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールのソファでうたた寝をしたり、安心できる環境を作っている。夜は、消灯時間は必ず何時とはしておらず、テレビを見ながらホールで過ごされる方もおられる。夜間眠れない方には、無理には入床を勧めず、ホールで少し話を聞いたり、ソファで横になられ休まれた際には、お布団をかけそのまま見守ることもある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は次の日の薬をスタッフが準備を行い、薬のチェックを行っている。その際に薬の内容やその薬についての目的が確認できるようなチェックシートを用いて、処方箋と一緒にファイリングしている。また服薬時にはお一人おひとりの出来ることに合わせ、難しいところだけを支援するようにしている。処方内容が変更又は追加になったときは、なぜ変更や追加になったのか、薬の変更で今後注意する点など書類で職員全員が回覧し把握できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホワイトボードに役割などを記入し、ホームの一日の活性化や役割作りを図っている。また、行事の予定をお知らせすることにより楽しみが共感できるよう努めている。また、昔の話を伺いながら、出来そうなことを考え、行事企画等に活かし、楽しく過ごせる場を提供できるように努めている。	季節ごとの貼り絵、ぬり絵、折り紙、習字、書き初め、カルタ、魚釣り、おみくじづくり、カラオケ、手芸ボランティアによる作品づくり、切干大根づくり、畑づくり、草取り、洗濯物干し、布団干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は毎月行い、とても楽しみにされている。また、近くのお宮まで散歩に行ったり、地域の祭りへ参加をしたり外出できる機会は多く作れるように、また常にホーム内で過ごされるより、屋外に出て気分転換も必要だとスタッフは考えている。利用者の方のお誕生日には、希望を聞きながら職員と一緒に個別外出の機会があり、1対1でゆっくりと買い物や食事したりゆっくりと過ごせる時間を設けている。またご家族にもお誘いをし、一緒に外出を行えるように努めている。	散歩コースのお宮まで散歩したり、地域の祭りや行事への参加、ドライブ(徳佐、鹿野の芝桜、梅見、イチゴ狩り、海響館、錦帯橋、徳山動物園、山口瑠璃光寺)、カラオケ、季節の花見など、家族にも参加を呼びかけて、利用者全員で出かける支援をしている。誕生日に利用者の希望する場所に職員と一緒に外食したり、靴を買う時は利用者職員と一緒に外食したり、靴を買う時は利用者職員と一緒に外食したり、靴を買うなど、一人ひとりの希望にそった個別の外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際は、お小遣いを用意し、欲しいものや食べたいものを考え、買い物ができるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をご家族に送ったり、時には手紙を書き、交流が途切れないよう心がけている。希望があればご家族に電話されたり、何か贈り物が届けばお礼の電話やお手紙を書いていただけるように努めている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設だけど施設ではない、家として、ホール内や玄関などは、月ごとに季節感を感じていただけるように工夫し、利用者の方と作成した飾り付けや、季節ごとに作成した壁画を飾っている。 日常の生活の様子や、外出時の写真などをその都度貼り変え、一人ではなくみんなと過ごしている安心感を感じられるよう工夫している。日本の行事や季節に合わせ、和菓子を作ったり、料理を行ったり利用者職員と一緒に楽しめる機会を多く提供している。	共用のホールは明るく、テーブルや椅子を配置し、利用者同士で思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。壁には利用者職員と一緒に作った季節に合わせた作品や外出時に撮った写真などを飾り、厨房からは調理の音や匂いがして、生活感や季節感を感じることができ、居心地良く過ごせるよう工夫している。加湿器があり、温度や湿度に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは固定配置とせず、利用者の方の状況や関係性、身体能力を考え、全員の方が安心出来る移動や、居心地よく過ごされる空間になるように、随時ソファやテレビや家具などの配置を変えている。 食事の席も固定はせず、家での生活に近づけるために、テレビを見ながら食事ができるようにテーブルの配置を考えたり、その時の雰囲気に応じて創意工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも慣れ親しんだ自宅に近づけるよう家具などを持参していただき、居室内で安心して、居心地がよく過ごしていただけるよう工夫している。	タンス、椅子、机、鏡台、衣装かけ、位牌、化粧品用品など好きなものを持ち込み、壁には貼り絵の作品や家族や知人の写真を飾り、居心地良く過ごせるような工夫をしている。ベランダに出て、外の景色を眺めたり、洗濯物を干したり、布団を干したりして日常生活が送れるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員のペースではなく、一人ひとりに合った支援を心がけ、自立に向け取り組んでいる。個別にお一人おひとりの状況に合わせ、どうすればできるのか、どうすればわかるのかを考え、こうすればできる、こうすればわかるを見つけ出せるように、職員同士で意見を出し合いながら、出来る事、分かることを多く増やせるように工夫をしている。		



## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム自由の杜

作成日: 平成 26年 10月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応については、実際に経験している職員が少なく実践力にかけていると思われる。職員が一人ひとり個々の知識を自信を持ってその場で実践に、活かせるかどうかは訓練などに取り組んでいかなければいけないと感じている。	全職員が急変や事故に遭遇しても、その時々が一番適切な応急手当や初期対応ができるようになる。	実践力を身につけるために研修参加を行い、研修後復命を行なった職員にも知り得た情報を共有できるように努めていく。又意見や検討や学習会、訓練などを定期的に行っていく。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。